

発行所 社会通信社 発行人 滝野 忠

ホームページ <http://shakaitsushin.cool.coocan.jp/> e-mail: shakaitsushin@nifty.com

東京都渋谷区本町六丁目二八―二九〇四 電話・FAX(03)3299-5367

郵便振替 〇〇一〇〇―九一五八四三一 労金 中央労金本店 No.1154163

〈もくじ〉

■巻頭言■

アメリカ大統領選挙

伊勢 太郎：2

「立憲主義」

滝野 忠：3

― 現代社会と政治支配 ―

成長戦略の終焉と菅政権の

原野人：6

エネルギー政策

「事故」を語らせない、

相双の会：8

「災害」の伝承館

権力と原発再稼働

井沢 清：9

同一労働同一賃金 3つの最高裁判決

金平 博：10

読者からのおたより

……………11

旬刊社会通信

NO.1325

二〇二〇年十二月一日

二〇二〇年十二月一日発行
(毎月一日・一五日二回発行)

アメリカ大統領選挙

大統領選はバイデンが圧勝、トランプを粉砕するだろうと考えておりました。トランプの無策から次つぎと墓穴に葬られる何十万の人の群れ、科学をあざ笑い蹴つ飛ばす無知、世界の政治指導者からの不信。共和党でも「アメリカの恥さらし辞めさせよう」と同盟を結ぶ人が増えました。前回選挙では民主党が「分裂」しましたが、今度の選挙では共和党が分裂しました。メディアは選挙の関心は「高い」と報じ続けておりました。不安がないわけではありませんでした。バイデンは常識人かつ迫力ないご老人、トランプは同じ老人でも重戦車のような荒々しさでみる者を踏みつぶし圧倒する。大統領はアメリカ最大の統領、ボスである。ボスはおとなしく、枯れた人物よりなまぐさい方がいい。アメリカ国民の大統領像であるらしい。バイデンに未来を切り開く力がみられなかったことです。

ある論者は権力者は危機の時代に強い、じっとしていれば敗けることはなかった、「自滅」とおっしゃいます。動き回り、波紋をまき起こし名をあげるのがトランプ流です。選挙人獲得数はバイデン306にトランプ232です。ちよつと目にはバイデンさんの圧勝にみえますが、最後の最後に郵便投票が勝ち負けを分けたのです。大接戦の結果です。

歴史に個人的な資質が与える影響も無視することはできません。アメリカ大統領選であらためて教えられたのは、保守2大政党制はものすごく強いということでした。アメリカは移民国家です。18世紀イギリスの清教徒たちの移住が国の成り立ちです。アメリカは封建的身分制に反対しアメリカに逃れたイギリス人、アイルランド人、19世紀には反動政治に抗し亡命したドイツその他の国ぐにの人びとが、はじめから「自由」の国、つまり資本主義国家として建国したのです。アメリカのイギリスからの独立は1783年です。民主党はプランター（奴隷制農業主）がつくり、共和党は奴隷制に反対する商工業資本家の党として定着し、世界でもっとも強固で「安定」した保守2党制をつくったのです。

資本主義社会は私有財産制（私的所有）による分業・競争の社会です。生産手段の私的所有が労働者階級を生み、分業と競争はマルクスがいう「窮乏・抑圧・隷属・墮落・搾取の度の増大」をかならずもたらしめます。いま大はやりの格差・貧富の差、新自由主義です。コロナ、あるいは新自由主義という独占資本の野放図な搾取と収奪が、資本主義の基本的矛盾を白日の下にさらけ出させているのです。

分断もそうです。アメリカ大陸への移住はヨーロッパの白人から始まりました。資本主義の発展はスペインの植民地としてあったラテンアメリカの国ぐにの人びとを労働者として吸い込みました。独裁国家から逃れた人も多いのです。アメリカの人種構成は、こうして白人、黒人、エスバーニャそしてその混血と多様かつ「分断」されているのです。したがって、分断、格差、貧富の差は今に始まったことではありません。根本的には私的所有にもとづく生産の発展がつくっているのです。ですから、私的所有を社会的所有（国有）に変える他根本的な改革とはなりません。

大統領選はアメリカの選挙戦のありさまをよくみせてくれました。共和党は金融、資源、農業、製菓、昔からの製造業と資本家が階級基盤です。ですから、どんなものであれ、分配を労働者に有利に変えようとする政策に「共産主義」とレッテルをはり、徹底的にぶったたきます。民主党は貧乏な労働者、労働組合員が支持者ですから、分配の変更を求めます。こうして共和党は民主党を「共産主義者の党」とレッテルをはり罵倒するのです。トランプはひっきりなしに、この言葉を叫んでいました。

マフィアの親分ゴットフアーザーも顔負けのトランプは負けを認めません。バイデンの大統領就任を阻止する、そうすれば「おれの勝ちだ」と、もうハチャメチャです。国防大臣の首を切ったかと思えば、アフガンとイラクから軍を撤退させる、イランへ戦争できないかと3軍の長に問うたりです。

バイデンが政権を担います。アメリカ製造業は衰え続けています。「変わる」との観測も少なくありません。しかし、民主党と共和党に外交・国防・貿易の基本政策に違いはありません。北朝鮮、中国、ロシアにはより強硬になるでしょう。変わるのは気候変動、同盟体制の構築くらい、大きな期待は禁物ということです。(伊勢 太郎)

「立憲主義」

Ⅰ 現代社会と政治支配 Ⅰ

たらい回し

政権がたらい回しされた。安倍から菅へである。安倍は政策が行き詰まったり、矛盾が深まったり、批判が強まり、支持率が下がると野党の政策をパクツたり、朝鮮半島の二つの国と中国の「脅威」を宣伝し生き延びた。それも限りが近づいた。モリ・カケ・サクラと選挙違反・カジノ汚職に赤木裁判、コロナ対策の無能ぶりー休業宣言・給付金・なんとかのマスクである。7年と8ヶ月はあまりにも長すぎた。政策をパクリ、中国や朝鮮半島を悪者にするだけでは乗り切れなくなった。たらい回しのわけである。

菅は「安倍政治の継承」をいい、全自民党の支持をえた。石破が「自殺」に追いこまれるまでである。『通信』第1321号で「菅内閣は安倍のコピーである。縮小コピーか拡大かが注目点」と書いた。菅の2ヶ月は「縮小」であることを刻印する。

第一、学術会議6人の学者「排除」である。数限りなくつくられる〇〇審議会委員は権力者の友だちが任命される。日の丸・君が代は起立しない、歌わない教師を罰し、いじめぬく。

イデオロギー(世界観)を強く持つ政党の影が薄くなった。これからは学者だと始まったのが「学術会議」だ。政府に異議を唱える者のページである。文部省・政府は中曽根葬儀で国立大学に半旗掲揚を強制。国立大82校中56校がかかげ、かかげなかったのが19であったという。学術会議問題の底にある学問の悲しい現実だ。

第二は学術会議問題をめぐる国会答弁、「縮小」をこれでもかと印象づけた、答弁に詰まり、官房長官が助け船を出した。さらに問われ、「官房長官がしゃべったとおろ」と器でないことをさらけ出した。菅は裏方・影の人、実務・実際の人、三欠く術、過程を切り捨て、結論だけの人物であることも。

野党「合同」

安倍の支持率は振り子のように揺れた。立憲民主を中心とする野党支持率は上がらない。自民党は全ブルジョアジーを支持基盤とする。野党の支持基盤は労働組合連合、規律と組織が大きいな学者、文化人を中心とするインテリゲンツィア、議員の多くはバッチを求め、党員となった出世主義者たち。彼らの多くはやはり組織と規律が大嫌い、自分の身があぶなくなれば、いつでもどこへでも転身する。

自民支持率ほどの調査でも立民と国民の合計より数倍上回る。野党が単独で選挙を戦ったのでは勝ち目はない。「集まる」しかない。共闘である。野党の中心立憲民主の支持基盤は連合。連合は国民民主と立憲民主を一つにしたいと動く。保守2党体制こそと立憲、国民合同である。連合参加組合は産業そして企業に利益あれと産業政策に力を注ぐ。自民支持も拒まない。海員組合のように政党支持自由論で自民、立憲、国民の国会議員を支援する組合もあれば、原発推進、憲法改悪を謳う電力や電機、ゼンセンのような組合もある。

政治にイデオロギー（世界観）の違いがなくなればどうなるか。政党の離合集散である。隣の韓国が示してくれる。選挙のたび解散、合流、新党結党の「お祭」だ。

立憲民主と国民民主の合同は失敗した。国民は残った。野党戦線は複雑になった。自民より右のいしん、いしんと自民を結びつけた新国民民主党、非自民の新立憲民主党である。新立憲、新国民は「反共」をイデオロギーとする連合と連携する。立憲は「立憲主義」、国民は「中道改革」を旗印とする。

憲法擁護

「立憲主義」とはなにか、古い政治用語である。明治の時代、藩閥政府に反対する党派が組織した憲政擁護会の主張に始まる。「立憲」のもともとの語義は憲法制定、立憲主義は制定された憲法に従って統治する政治のあり方を示す。一言でいえばブルジョア民主主義の実現、擁護である。

なぜ今、「ブルジョア民主主義擁護」、「日本国憲法擁護」ではなく、「立憲主義」なのか。枝野氏が「立憲主義」をいい、分裂民進党の一方に、立憲民主党の旗を立てた。旗は新立憲民主党が継いだ。同党の綱領（基本理念と私たちのめざすもの）にこうある。（2020年9月15日 結党大会制定）

【1、基本理念

立憲民主党は、立憲主義と熟議を重んずる民主政治を守り育て、人間の命とくらしを守る、国民が主役の政党です。

私たちは、「自由」と「多様性」を尊重し、支え合い、人間が基軸となる「共生社会」を創り、「国際協調」をめざし、「未来への責任」を果たすこと、を基本理念とします。私たちは、この基本理念のもと、一人ひとりの日常のくらしと働く現場、地域の声とつながり、明日への備えを重視し、国民の期待に応えうる政権党となり、この基本理念を具現化する強い決意を持って立憲民主党を結党します。

2、私たちのめざすもの

(ア) 立憲主義に基づく民主政治

私たちは、立憲主義を守り、象徴天皇制のもと、日本国憲法が掲げる「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」を堅持します。

私たちは、立憲主義を深化させる観点から未来志向の憲法議論を真摯に行います。私たちは、草の根の声に基づく熟議を大切にしながら、民主政治を守り育てます。【

立憲主義は、日本国憲法の理念であるブルジョア民主主義の追求と読める。どのようにして？「立憲主義と熟慮を重んずる民主政治」「立憲主義を深化させる観点」

「未来志向の憲法論議を真摯に行い」、「草の根の声に基づく熟議を大切に」と。

手元に20年10月吉日 立憲民主党代表 枝野幸男の「ご挨拶」がある。そこには綱領の理念がもつとやさしく書かれてある。

【私たちは、第一に、過度な自己責任社会から支え合いの社会へと転換します。

第二に、責任ある「機能する政府」を取り戻します。第三に、多様な地域の魅力を引き出し、さまざまな生き方を自由に選択できる社会をつくります。第四に、国民の命と国益を守る現実的な外交保障を進めます】

枝野さんは「過度な自己責任社会から支え合いの社会へ」、「責任ある機能する政府」、「さまざまな生き方を自由に選択できる社会」、「国益を守る現実的な外交保障」を強調する。結党の言葉は優しく脇をくすぐる。しかし、内容、中味がない。こんなことは自民党でもしゃべっている。

枝野氏は自民党の反動政治に立憲主義を対置する。くり返すが、綱領規定から「立憲主義」は民主主義擁護、現憲法擁護と同じ概念であることがわかる。民主主義を擁護し、押し進めていけば、いつか「新しい」民主主義社会―公正な配分により格差を解消し、一人ひとりが幸福を実感できる社会―が生まれ得るかに夢想する。

社会主義者の民主主義観は枝野さん流の「立憲主義」であってはいけない。社会主義者のブルジョア民主主義を足場にプロレタリア民主主義をめざすのであるから。

立憲民主党の綱領は当面の政策集にすぎない。すでにみたが抽象的、一般的で具体性はない。具体的なのはエネルギー政策の「原子力エネルギーに依存しない原発ゼロ社会を一日も早く実現」があるだけだ。

連合と立憲民主

立憲は9月17日、連合との間に協定「共有する『理念』について―命とくらしを守る『新しい標準（ニューノーマル）を創る』を結んだ」。

ここにも優しく、うるわしく、誰もが魅了されるように中味のない言葉がならんでいる。きわめつけは第3項の命とくらしを中心に据えた新しい資本主義。そこには「過度な自己責任論、競争万能主義、株主至上主義から脱却する。株主のみならず、従業員、消費者、取引先、地域社会など多様なステークホルダー（利害関係者）への利益の公正な分配」とである。

しかし、しかしである。ちゃっかり「反共」、原発推進のイデオロギー、「左右の全体主義を排し、多様な価値観を否定せず熟議を尽くす中道の精神を重んじ」、「低廉で安定的かつ低炭素なエネルギーシステムを確立する。その際には2項対立的思考に陥ることなく、科学的知見に依存する」がのし歩く。

ここに連合主流組合の考え、イデオロギーがはっきりと示される。「中道・反共産」である。「中道」とは何かをはっきり示してみせるのが、民進党を分裂させ、新国民の代表代行となった前原誠司である。彼は「安倍は野党の政策を飲み込み論争をなくして選挙を闘うやり方をとってきた」と保守2党の政策の競いあいでは政権をとることは難しいと指摘する。ところが前原氏は「私は今でも、維新と希望の党と一緒にになり、凸凹をうまく組み合わせて巨大な自民党をひっくり返そうとしたチャレンジに後悔していない」「維新の会は大阪府知事の効果で、かつての希望の党のようになりつつある。この状況下に旧民主党系だけかたまっても左はれいかに右は維新に奪われていく。最大公約数をとり、自民党と違った社会をいかにつくっていくかが重要となる」(『中央公論』9月号)、「おれはもつと右にいく」と、臆面もなく語る、前原は「情勢は変わった」と赤恥をかかされた小池、維新にスリ寄る。国民、希望、維新は第2自民党となる。「乞食」政党公明党との争いとなる。

「コロナ」と政党

野党と自民との関係は反自民が共産、非自民が民主、親自民が維新、国民である。総選挙は1年以内にある。昔は情報の網をめぐらせ、勝てる時を選ぶ。権力者の特権である。

「コロナ」、都知事選は各党のイデオロギーと支持基盤をはっきりさせた。「保守」は現体制、資本主義社会維持を目的とする。自民、公明、維新、国民である。自民は全ブルジョア階級を基盤とし、公明はブルジョア階級のおこぼれに寄食する、乞食政党になり下がった。維新は自民より右の労働者・労働組合ぎらいの没落小商工業主、国民は一部ブルジョアジーと議員の支持者となる。

「非自民」の党が立憲そしていいわ。立憲は一部ブルジョアジーとプチブルインテリ、最大の支持基盤は連合である。れいわは山本太郎が中心のプチブル個人主義を特色とする。それは無政府主義にもつうずる。

「反自民」の党は共産、社民、新社会である。共産党は労働者と勤労諸社会層、インテリを組織する。もつとも組織された党である。社民党は労働組合の支援の上に立つ。この党は11月15日解党を決めた。光輝ある社会党は姿を消す。新社会党は社会主義の党である。いかにも小さい。知識を高め、地方議員をふやすことが当面影響力拡大の道である。(滝野 忠)

成長戦略の終焉と菅政権のエネルギー政策

原発輸出計画は

原発輸出計画は全面破綻した。独占資本とその安倍政権は原発輸出を成長戦略の柱と位置付け、世界中进行脚してきたが、ついにすべての計画が行き詰まり、安倍政権とともに終焉した。

日立製作所(中西宏明会長・経団連会長)は、2012年に英国の原発事業会社『ホライズン・ニュークリア・パワー』をドイツの電力大手から買収し、英国中西部のアングルシー島に、2020年代前半の運転開始を目指し、130万kW級の改良沸騰

水型軽水炉二基を建設する計画を立てていた。しかし一方では福島第一原発の事故以来、安全対策費が急騰したことにより、他方では洋上風力などの自然エネルギーが普及したことにより、英国にとつて無用の長物になった。

総事業費3兆円のうち英政府が2兆円の融資を提示、日立などの出資分には事実上、日本政府が債務保証を付けるという枠組みを作り、政府つまりは国家が露骨に独占資本の後ろ盾になるという形まで取ったが、さほどの利潤が見込まれなくなった。

昨年1月に日立は、計画の「凍結」を表明したものの、成長戦略の目玉に「インフラ輸出」を掲げる安倍政権をたてて、「撤退」は菅政権に代わるまで宣言されずにいた。だが英国では原発建設はとうに終焉していたのだ。北海油田の枯渇に対しては洋上風力などの拡充で対応できていた。

他国への計画は

すでに東芝は二年前に海外での原発事業から完全に撤退している。

三菱重工は地震国・トルコの原発計画を中止せざるを得なくなっている。こうして安倍政権を継承した菅政権の原発輸出による「成長戦略」は完全に消滅した。

国内に原発の新設はなかなかできなくなったから、三菱や日立や東芝は輸出で稼ごうと考えたのであるが、もうそんな時代ではなくなっている。

電力資本の悪あがきと世界の自然エネ

日本の電力独占資本はといえば、被災原発や老朽原発の稼働を強行しようとする。

10年前の大震災で間一髪の大事故をまぬかれた東海第二の老朽原発と女川原発2号機を強引に稼働させようとしている。災害時の避難計画も成り立たないままに。

若狭湾では40年超の老朽3原発、美浜3号機、高浜1、2号機まで再稼働させる。予測された大津波にも対応せず福島事故の責任逃れをする東電は、7年7月と9年5月に被災した柏崎刈羽原発を再稼働しようと、来春にも核燃料を装填する計画だ。

世界全体の自然エネルギーによる発電量が、昨年はじめて原発を上回った。原発の発電コストは高く、世界のエネルギー市場で競争力をすっかり失っている。特に風力発電の成長率が高く、太陽光がこれに次ぐ。日本の洋上風力のポテンシャル（潜在発電能力）は世界でも最も恵まれており、これで全電力をまかなうことも困難なことではない。この地震列島で原発はすべて速やかに永久停止し、純国産エネルギーである洋上風力発電の開発にこそ、政府も経団連も力を入れるべきである。

菅政権の危険なエネルギー政策

菅首相は庶民面（づら）に陰険さを秘めながら、「2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする。カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」、「安全最優先で原子力政策を進めることで、安定的なエネルギー供給を確立する」と所信表明で述べた。

衆参の代表質問に対しては「再生可能エネルギーのみならず、原子力や石炭を含め、あらゆる選択肢を追求していく」と繰り返した。

露骨な原発推進政策

安倍政権よりも露骨な原発推進政策である。国内に建設途上も含めて原発は36基

ある。稼働できるのは最長60年のため、2050年には20基に減り、そのほとんども数年後には寿命が尽きる。以後の二酸化炭素を「実質ゼロ」にするためには、原発の建て替えや新設を推進するということである。

安倍政権時代に成長戦略の柱だった原発輸出計画が完全に破綻した現在、独占資本にとつて、原発の国内建設を復活させたいところであり、菅政権はこれを忠実に後押ししようとしているのである。

大型石炭火力の新設も

菅首相は「石炭を含め、あらゆる選択肢を追求」として、ぬかりなく新型の大型石炭火力の新設も含めている。

ところがカーボンニュートラル、カーボンリサイクル、などといっても、山林や畑や野原などは荒廃し、休耕田も増えており、日本列島で二酸化炭素を吸収する能力は大幅に落ちている。石炭火力はもとより、石油火力、LNG火力等の排出する二酸化炭素の全量を吸収することなどできる状態ではない。

風力の巨大なポテンシャルを無視するな

2050年までに二酸化炭素の排出をゼロにすることも、原発を速やかにゼロにすることも、本当はさほど難しいことではない。ドイツやイギリスや北欧諸国などに学べば、日本では風力、なかでも洋上風力こそ開発を急ぐべき自然エネルギーの本命である。風力だけで全電力を賄うことも、世界で最も実現しやすい国である。

環境省は風力の導入ポテンシャルを、国内の陸上で2億8千万kw、洋上で10億kwから16億kwと見積っている。経産省は陸上で2億9千万kw、洋上で15億kwと算定している。ちなみに現在の全国の総発電設備容量は2億4千万kwである。

自然エネルギーに全面転換せよ

世界にすっかり後れをとりながらも、ようやく中部電力が丸紅等12社と共同で、秋田港と能代港に日本初の商業ベースである大型風力発電施設（14万kw）の建設にとりかかった。20年2月に着工し、22年の運転開始を予定している。

日本の電力資本や重電機資本は、福島原発の教訓に学んで、いつまでも人命軽視の安易な利潤追求から卒業し、原発や火力にしがみつくのはやめて、風力発電の建設に転換すべきである。低周波音の被害が生じないように十分な距離をとることが必要だが。そのための送電網の拡充、揚水式発電の風力等への活用を推進すべきある。

太陽光発電は、真夏の電力需要がピークになるときに、発電もピークとなって有効であるが、森林伐採、耕地破壊などの乱開発は避けねばならない。（原 野人）

「事故」を語らせない、「災害」の伝承館

東日本大災害・原子力災害の「記録を未来へ継承していくための施設」として2020年9月20日に双葉町に開館されました。

建物は3階建て延べ床面積約5300平方メートル。素晴らしく立派です。福島県が建設したとなっているが、国が実質全て負担しました。国の職員も出向する公益財

団法人「福島イノベーション・コースト構想推進機構」が管理、運営しています。入場料、大人600円、小中高300円です。館内写真撮影禁止が目につきます。津波による写真などはなかなか充実しているが、災害時のそもそも展示数が少ない。原発事故時の模型らしきものはあるが、あの恐怖の実態が伝わりません。

「世界初の甚大災害」とパンフレットには書いてありますが、「原子力発電所事故」の実態がどこにもありません。

市町村が崩壊、家族までバラバラされてしまい元に戻れなく苦しみのあまり世を去ってしまった人、その生の声など、どこにもありません。

「原発事故」という言葉もない。語り部の方からも「原発事故」の言葉が一言も出てきません。だから教訓を十分に伝えられる内容になっていません。

パンフレットをはじめ展示はすべて「原発事故」ではなく「原子力災害」なのです。まるで自然災害であつて、管理に責任がある「事故」ではないのです。

「放射能公害」で元に戻るには200年〜300年と自然消滅を待つ他ないという事も何処にも載っていません。

「伝承館」とは、ありのままを知ってもらい、広めて頂く事ではないでしょうか、伝承とは、後世にありのままを伝える事でしょう。とすれば入場券とか写真撮影禁止などあるべきでないと思います。

原発事故を覆い隠し、何ごともないとする宣伝のための伝承館なのか不審でなりません。（『原発事故被害者相双の会』No.102、2020年11月1日）

権力と原発再稼働

美浜老朽原発再稼働住民説明会に抗議 10月31日美浜原発3号老朽原発再稼働を目指す関電の住民説明会が、美浜町役場横のホールで開催された。午後1時30分に合わせ神戸、滋賀の仲間や、地元町議も含め15名の仲間が緊急抗議を行った。折しも、前日中国電力島根原発2号機の船舶用防波堤の高さが低いとの原子力規制委員会の指摘を受けて、今年度の再稼働を断念したと島根県内テレビでは放送されていた矢先である。ホールは原発マネーかと思うほど立派な建物。参加は事前の予約者以外は入れず、厳重な入場チェック。玄関には福井県警私服刑事の配置。やはり、原発は権力に守られなければならないこともハッキリしていた。参加者は町民で100名程度か。入口のビラ配りも「要らない」という人もいたが、ビラを受け取ってくれる人も多かった。さらに、「あつそのビラ家で見えています。」という人も多かった。

原発は非常に危険だ。福島に学べ。ひとたび事故を起こせば二度と住めない。全てを失うのだ。本当に電気が足りないのならともかく、しかし、電気は足りている。

住民説明会で関電や政府側は何を説明したかわからないが、こんな危険で必要もない原発はいらない。さいなら原発・びわこネットワーク稲村守事務局長の「老朽原発うごかすな。」のシユプレヒコールで終わった。

高浜1号原発再稼働請願採決強行への抗議 高浜町は住民説明会も終わり11月6日に委員会開催の予定で、その後町議会にかけるという。最終は福井県知事の判断だが、

住民の声と危険性を認識させるように、これから追い込んでいく。

11月12日、高浜原発1号機再稼働の高浜町臨時議会の応援にいきましました。11月6日の特別委員会採択を基に本日全員議会で再稼働を採択しようとするものでした。

前日現地入りの老朽原発うごかすな実行委員会の木原壯林さんらは、高浜町職員の出勤時のビラマキを企画し、当日参加も含め合計25名の氣勢を上げ、町民の声を聞けとシュプレヒコールをあげた。

地元商工会請願と、再稼働慎重にと反対派・渡辺高浜町議紹介の4請願が審議された。再稼働請願は12対1で可決され、反対4請願は提案説明の機会なく賛否討論のあと否決された。傍聴も報道関係10数名、対し一般は4名、10時50分から始まった再稼働審議、12時過ぎ、渡辺町議や傍聴の中島哲演さんが議会報告。賛成派は、むしろ、賛成理由を「何か言わないといかん」と消極的にのべた。この原発で雇用が保たれているとか、原発がなくなつて以前の高浜に戻るのか。さらに、今のところは仕方ない。などなど、老朽原発うごかすな実行委員会の中島哲演さんは、「原発は危ない、だけではいかん。コロナの休業補償みたいな、原発のない町作りを提案しないといかん」ともいわれた。参加者は、無責任に原発再稼働を認める責任や、再稼働は高浜だけの問題ではないともいわれた。事故の場合どうするのかと氣勢を上げた。

いずれにしる茶番だが、賛成派も原発運動の成果もあり、町議会レベルではそれなりの理由を述べて、その正当性について発言したという程度。(自分の為の発言か。) 議会は11月25日再度全員議会で決定し、町長に進言する予定だ。この間のアメールデモや原発で、町民レベルでの運動の拡がりには確実なものとなつている。議会の状況を見てもそうた。

やはり、うまい手はなく、運動を続けて力関係を変えるしかない。攻勢は勝っている。あとは量から質への転化だ。(さいなら原発・びわこネットワーク・井沢 清)

同一労働同一賃金 3つの最高裁判決

待遇差「不合理でない」 最高裁二つの判決(10月13日)

第1の判決は、東京メトロの子会社で働く4名の女性契約社員が訴えていたものです。約10年にわたり駅の売店で働いてきたのに退職金が出ないのは、正社員との不合理な労働条件の違いを禁じた労働契約法20条に反するというものです。

東京高裁は、正社員の退職金の25%にあたる賠償金の支払いを命じていましたが、最高裁はそれを退けました。その理由は、仕事や責任に一定の違いがあるうえ、退職金には「正社員として職務を行う人材の確保」を図る目的があると言いました。

4名の女性は「最高裁は労働者を見ていない」と怒りの声をあらわにしています。担当した弁護士も「最高裁の考え方は前近代的、裁判官の発想の切り替えを求めたい」と訴えています。

第2の判決は、大阪医科大学でアルバイト社員として働いてきた女性のボーナスの支給を求める訴えです。女性は研究室の秘書としてフルタイムで働いてきたが、他の研究室で働く正社員や契約社員にはボーナスの支給はあったが女性にはなかったのです。これも大阪高裁では正社員の6割のボーナスが認められ、希望を持っていました。

しかし、最高裁は仕事の内容や責任の違いを理由に、高裁判決をくつがえし女性の訴えを退けました。それでも女性は、「判例を積み重ねることで前進する。どんどん裁判を起こしてほしい」とコメントしています。

ただ、最高裁は今回不合理ではないが、退職金やボーナスを非正規社員に支給しないことを不合理と認めることもあると述べています。労働組合の役割がますます重要になっている事は、言うまでもありません。

手当・休暇などの格差は「不合理」(10月15日)

日本郵便の契約社員らが正社員との待遇格差について訴えていた事件について最高裁が10月15日、画期的といえる判決を出しました。従業員38万人の約半数の18万4千人が非正規社員という日本郵便に対する最高裁の判決であり、今後非正規社員の待遇を見直す動きが間違いないと思えます。

扶養手当を支給しないのは不合理と判断し、有給の病気休暇も認めました。年末年始の勤務手当や年始の祝日給についても認め、有給の夏季休暇・冬期休暇も格差があつてはならないと判決しています。

「同一労働同一賃金」を促す法律は、大企業は2020年4月に施行され、中小企業は2021年4月からの施行となります。

非正規で働く労働者が2千万人を超えている現在、この判決は大変大きな意味を持ち、大きな闘いの武器になることは言うまでもありません。労働組合としてしっかりと取り組んでいきましょう。(あかしユニオン 金平博)

◇ 読者からのおたより ◇

「や・しばらく」と岩井章さん 素敵な報告写真など資料ありがとうございます。山浦さんから「や・しばらく」をいただき恐縮、素敵な人、家族ですね。葉つきのりんごを描いてみたく、恥ずかしいもなく…。天気にも恵まれ、思いがけずの命のせんたくでした。食よし、友よし、岩井章さんに会ったような感じでした。「や・しばらく」というように！昨日シニアの俳句もあつたりで、「ハンセン病 今も差別が 霧のように」(字余り)、これから出かけます。(菅原須摩子)

▽編集部より 『通信』前号No.1324巻頭言に触発され、写真貼付報告を左記のホームページアドレスに掲載しました。新潟・長野の紅葉、りんご狩り、岩井章さんの揮毫等みてください。

<http://shakaisushin.cool.coocan.jp/mokuji/tunanobuse.pdf>

思い出の郵便ポストNo.173 (2020・11・1) 今回の思い出の郵便ポストは、宮城県女川の黄色の丸型郵便ポストです。東北の友人からの提供です。管内閑閑足、安倍内閣の改造版。良くなるどころか安倍の「嘘」のさらに上書き「大嘘」で、さらにさらに真つ暗闇に。私は編されません。野党ももっと結束して真実を明らかにすべきです。(長野県飯綱町・山浦隆芳)

音楽の力 「原発被害者 相双の会」100号記念号に、フリーのチェリスト土肥敬さんが支援のメッセージを寄せています(本誌No.1319)。コロナ禍のなか工夫しつつ演奏活動を早々開始され、私も演奏会に駆けつけ音楽の力に感銘。会場にこたわり、ピアノはベーゼンドルファーの「やわらかく、厚みのある音質、弦楽器との相性、弦楽器を包んでくれるような響き」にこたわり、「廃棄処分」されそうだと聞けば「素晴らしいインペリアル、まだまだ使える」と呼びかけ運動もされた音楽家。東京・日立・いわき・京都でチェロレッスン、関西中心に音大出身の方にアンサンブルの指導もされている。コンサート会場の写真や感想など左記ホームページに掲載。ご覧いただければ嬉しい。

<http://shakaisushin.cool.coocan.jp/mokuji/dohicelloconcert.PDF>

(滝野嘉津子)

心のフィルム 本誌No.1324巻頭言と、カラー写真を交互に見て、懐かしい『弥次喜多道中』を思い出しました。私がヒュッテと言ったのは「切明リバーサイドハウス」。目に触れる錦繡はずっと心のフィルムに残りますね。ア・ラ・小布施の宿は外観の佇まいも寝室も素敵ですね。数年前の夏 8月に訪れた小布施、懐かしく、北斎館、岩松院も車で回りました。「おぶせミュージアム・中島千波館」も見ってきました。

* 恵まれた 錦繡日和 ありがたく、郷愁つゝのる 縮図もあり

人生100年と言われる昨今、菅原須摩子様の健脚は 私も見習わないと…。菅原須摩子さん、嘉津子さんより4歳上なんですね。俳句を嗜み 投稿していて、以前 初めて投稿した句が入選したと、喜びの文章が『通信』に掲載されたのを、覚えております。澁刺としていて、憧れますね。須摩子様の 林檎の色紙のくだりに…。

* 懸け橋と なりて繋ぎし 縁ある えだ葉の様に 満ちて拵がれ (東京・兼子千栄子)

維新、自民の利権ではなく、いのちとくらし最優先の政治転換 私にとっても昨年四月の府議選、今年の市議補選、来春の市議選と選挙に明け暮れる日々が続いております。10月はポリープ摘出手術で初めての入院生活を体験しましたが、退院後は以前にもまして元気に市民相談や「市民の声を聞かせてください」のぼりを背負って活動を再開してします。

さて安倍首相から菅首相へと政権は変わったものの、日本学術会議への人事介入など独裁的傾向はかえって強まった感があります。10月は大阪市の住民投票で「反対票を」と幾度も大阪市内で訴えてきました。大阪府がカジノIR推進のために、大阪市の大きな権限と財政をむしりとる、サービス低下必至の「都」ではなく特別区構想を許すわけにはいきません。

維新、自民の利権ではなく、生命とくらし最優先の政治転換に向けてともに頑張りますよう。

(前大阪・茨木市議会議員 山下けいき)

近況 北海道における「核のゴミ」問題については、新聞・テレビを始め全国的に報道されていますね…。①「核ゴミ」は北海道内の「寿都と神恵内」の動向についての『北海道新聞』のコピー、10月9日と10日号を送りました。②本場に本場に「核ゴミ・調査受諾者」は「同・応募書を提出」と言う事態の流れの中で「くやしい・許しがたい…等々の思いでいっぱい」です。③まだまだ、もつと悪い方向へ展開していくことに、強い警戒心を持って注視しているところです。

以上、取りあえず、①のように「資料」を(重ねて)送りました。」皆さまへ! どうか、これからはもつと寒くなりますので、お身体には十分気を付けて下さい。(元国労組合員・松里福慈)

ecoおといねっぶ4つの目標 ▽7月19日には、NPO法人ecoおといねっぶの第14期定時総会を開催。向こう1年間の事業計画を確認しました。本年は4つの方針、①工芸部は新たな記念品等の商品開発と売れ筋商品の在庫の確保、委託事業の確保、②食品部はPB商品の開発、生協等への販路拡大、③事業部は、新たな販路と商品開発、④その他、事業の4目標を確認しました。

▽弊社手作り音威子府味噌と木工職人が手作りした木の温もりたっぷりの木工動物・パズルが、ふるさとチョイスに(ふるさと納税)に商品が選ばれ、4月から返礼品として全国の皆さんに発送させていたいています。

▽8月〜10月には、おといねっぶ工芸・美術高校卒業によるアーティストレジスタンス2020が開催され、弊社社員、山内尊・水野咲衣花・赤澤慶二郎さんらも参加し、工芸品・美術品を展示、村内外から訪れた多くの皆さんに木工芸・アート作品の素晴らしさを見て頂きました。

▽この1年間、皆様のあたたかいご支援を頂き有難うございます。引き続き職員一同、安心して暮らせる社会を目指して、より良い安心・安全の商品を目指し一層奮闘していく決意です。

ホームページもご覧下さい。 <http://otoneppu.com/> (ecoおといねっぶ「通信」2020冬号)